

高等学校国語科学習指導案

広島県立呉商業高等学校

教諭 太田 智子

- 1 日 時：令和5年11月1日（水）第4限
- 2 学年等：第1学年1・2組（30名）2クラスを3クラスに再編して授業を実施
- 3 場 所：1年1組HR教室
- 4 科 目：「現代の国語」
- 5 単元名：「『プレゼン名人』を目指そう！」（相手の理解が得られるように、表現を工夫しよう。）
- 6 教 材：東京書籍「資料を活用して発表しよう」、商業科ビジネス探究（ビジネス基礎）で作成したプレゼンテーション資料

7 単元観

本単元は、「話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。」（〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこと ウ）及び「主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。」（〔知識及び技能〕（2）ア）を重点的に指導する目標として設定する。

上記の事項は、「ビジネス探究（ビジネス基礎）の授業で行う発表（プレゼンテーション）を充実させよう」という設定で、プレゼンテーション資料をブラッシュアップするという言語活動を通して指導する。国語科の学習で身に付けた力が、メタ認知され、汎用的な力として、他教科での発表の場面で実際に活かせるよう、実際に他教科で作成した成果物を教材として使用する。

8 生徒観

A 話すこと・聞くことの領域に関して、1学期に行った単元において、「相手に伝えたいことがある場合は、どのように情報を集める必要があるか」ということについて学習し、この単元ののちに行った定期考査において、「論拠などの情報を集めて、主張をしていくこと」についての力をみる問題において、約80%の生徒はおおむね満足できる状況と評価できる解答が記述できていた。その後、「目的や場に応じて、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること」について学習した単元において、MC（司会）原稿を作成するという言語活動を通して、MCの役割という制約の中で、相手意識をもち、論拠の情報を整理し、適切に表現していくことについて学習し、この力をみる定期考査においても同じく、約85%の生徒はおおむね満足できる状況と評価できる解答が記述できていた。今単元では、1学期で学習した単元で付けた力に加えて、プレゼンテーションソフトを用いた提示資料を作成し、聴衆の理解を促す工夫を身に付けさせたい。

また、各教科で付けた力を、他教科での学びなどに汎用的に活かすという経験が乏しいため、各教科で培った力が生活のあらゆる場面で意識的に活かされていく傾向がある。よって、国語科で育成する、表現に関する力を、他教科の発表などの際に意識して活かすことができる力を付ける必要がある。

9 指導観

本単元における指導上の工夫は主に次の二点である。

- ① A 話すこと・聞くことの領域において、前単元までの学習を基に、どのように読み原稿と提示資料を工夫すれば相手に伝わるのかを、読み原稿と提示資料を照らし合わせながら考察させ、気付いた注意事項を基にプレゼンテーション資料チェックシートを生徒自身に作成させる。そして、生徒自ら

作成したチェックシートに沿って、自分のプレゼンテーション資料を複数回作り直ししながら、「なぜそのように変えるのか」を意識させて、言語活動に取り組みせ、「変えた理由」が「相手の理解が得られるための工夫」に影響することを理解させる。

- ② 本単元において、「ビジネス基礎（ビジネス探究）で行う発表で使用するプレゼンテーション資料をブラッシュアップする」という言語活動を設定することにより、国語科での学びを他教科で活かすという具体を生徒に経験させる。

10 教科横断的な学びを意識した、他教科との関連付け

本単元は、現在履修中である「商業科ビジネス探究（ビジネス基礎）2 内容（2）ビジネスとコミュニケーション ウ コミュニケーションの基礎」における、ビジネスの諸活動を円滑に行う上でのコミュニケーションについて理解する力を養う単元と関連させて授業を展開する。

11 単元の目標

- 主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕
- 場の状況に応じて資料や機器を用いるなどして、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

12 言語活動

相手の理解が得られるように表現を工夫し、一度作成したプレゼンテーション資料をブラッシュアップする。（A 話すこと・聞くこと 言語活動例ウに基づく）

13 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	b 「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて資料や機器を用いるなどして、相手の理解が得られるように表現を工夫している。	c 相手に理解してほしい事柄について、様々な観点から粘り強く整理、吟味し、表現の工夫を加えながらプレゼンテーション資料をブラッシュアップしようとしている。
（規準（B）を満たす条件） 伝えたい内容と提示する資料とが、どのように関係しているかを理解している。	（規準（B）を満たす条件） 場や聞き手の状況に応じて、説明する事柄について、抽象を具体的にしたり、具体を抽象にしたりして、原稿や提示資料の表現を工夫している。	（規準（B）を満たす条件） 相手の理解が得られるような表現の工夫をするために、改善案を複数挙げるなどして吟味し、よりよいものを選ぼうと試行錯誤している。

14 単元の指導と評価の概要（全6単位時間想定）

◆：記録に残す評価

次	学習活動	知	思	主	評価方法
一	○ 単元の目標や評価規準、言語活動の進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 前単元までの学習内容を振り返り、相手に主張を伝えるためには、相手意識をもち、中心的话题を理解した上で情報を整理、吟味し、原稿や提示資料を作成する必要があることを確認する。 ○ 「台湾の留学生に対して宮島を紹介する」という目的で作成されたプレゼンテーションを提示し、「相手の理解を得る」うえでの問題点を指摘させる。				(知)「ワークシート」の記述確認及び単元終了後の「ペーパーテスト」の記述確認
二	○ 「台湾の留学生に対して宮島を紹介する」という目的で作成されたプレゼンテーションの問題点が、なぜ「相手の理解を得る」うえで問題なのかを分析させる。 ○ 分析した内容を共有し、どのように改善すればよいのか、なぜそのように改善するのかを明確にする。 ○ 分析を基に「プレゼン名人」になるための、「プレゼンテーション資料チェックシート」を作成させる。		◆		(思)「ワークシート」の記述確認及び単元終了後の「ペーパーテスト」の記述確認
三	○ プレゼンテーション資料の作成の際のポイントを整理して作成した「プレゼンテーション資料チェックシート」を完成させる。 ○ 作成したチェックシートに沿って、ビジネス探究（ビジネス基礎）で作成しているプレゼンテーションを見直し、問題点を分析する。【本時】 ○ 問題点の分析を基に、修正案を改善する理由を明確にしながらかえる。 ○ 改善を目的として行った表現の工夫について、元のものとは今回ブラッシュアップしたものを見比べて整理し、ワークシートにまとめる。 ○ 単元の学習を通して得た気付きを「振り返りシート」に書く。	◆	◆	◆	(知)「ワークシート」の記述確認 (思)「ワークシート」の記述確認 (思)「ワークシート」の記述確認及び成果物の記述確認 (主)「振り返りシート」の記述確認

15 単元の流れ ※「評価規準・評価方法」欄のa～cは「単元の評価規準」にそれぞれ対応している。

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	○ 単元の目標や評価規準、言語活動の進め方を確認し、学習の見通しを	・今後の様々な発表の場面で活用できる、「プレゼンテーション資料チェックシート」を作成し、実際	

	もつ。 ○ 前単元までの学習内容を振り返り、相手に主張を伝えるためには、相手意識をもち、中心的話題を理解した上で情報を整理、吟味し、原稿や提示資料を作成する必要があることを確認する。 ○ 「台湾の留学生に対して宮島を紹介する」という目的で作成されたプレゼンテーションを提示し、「相手の理解を得る」うえでの問題点を指摘させる。	にこれまで自分が作成したプレゼンテーションを改善するという、言語活動のゴールを示す。 ・前単元で学んだ、相手意識（放送を聞く人、リクエストをしてくれた人）をもって、情報を整理し、MC原稿を作成したことを思い出させる。 ・友達の作ったプレゼンテーションを改善するという設定にして、生徒が思わずやってしまいそうな失敗が含まれたプレゼンテーションを提示し、問題点に気付かせる。	
二	○ 「台湾の留学生に宮島を紹介する」という目的で作成されたプレゼンテーションの問題点が、なぜ「相手の理解を得る」うえで問題なのかを分析させる。 ○ 分析した内容を共有し、どのように改善すればよいのか、なぜそのように改善するのかを明確にする。 ○ 分析を基に「プレゼン名人」になるための、「プレゼンテーション資料チェックシート」を作成させる。	・第一次の学習を踏まえて、指摘した問題点を分析し、改善方法について考えさせる。（「大きな鳥居」では、「大きい」の伝わり方が人によって違うことなどを気付かせる。） ・問題点を抽出できない場合には、宮島の写真を複数示して、伝わり方の違いを実感させて、工夫の仕方の具体的な方法を理解させる。（宮島の遠景や、鳥居のみの写真、比較できるものと鳥居が写った写真、寸法が示されている写真などを提示する） ・自分もついついやってしまいそうな失敗を、今後のプレゼンテーション資料作成時にしてしまわないように、チェックシートにしていく。	（思）b「ワークシート」 「相手の理解が得られるような工夫」の具体が理解でき、改善の方法について思考できているかを見取る。

三	○ プレゼンテーション資料の作成の際のポイントを整理して作成した「プレゼンテーション資料チェックシート」を完成させる。 ○ 作成したチェックシートに沿って、ビジネス探究(ビジネス基礎)で作成しているプレゼンテーションを見直し、問題点を分析する。【本時】 ○ 問題点の分析を基に、修正案を、改善する理由を明確にしながら考える。【本時】 ○ 改善を目的として行った表現の工夫について、元のものと今回ブラッシュアップしたものを見比べて整理し、ワークシートにまとめる。 ○ 他の生徒と、ワークシートを共有する。 ○ 単元の学習を通して得た気づきを「振り返りシート」に書く。	・第二次の学習で作っていた「チェックシート」を周囲の意見も聞きながら完成させ、他の授業でも使える、汎用性のあるものであると気付かせる。 ・作った「チェックシート」を使って、これまでの自分の作ったものについて分析させる。 ・なぜそのシートを、そのように直すのかを「相手の理解を得る」という視点から分析させ、明記させる。	(知) a「チェックシート」 相手の理解を得られるように表現を工夫する方法や、作成時に気を付けることを理解しているかを見取る。 (思) b「ワークシート」 自分のこれまで作ったものについて「チェックシート」に沿って問題点を分析し、改善の方法を、理由を明確にして、整理しているかを見取る。 (主) c「振り返りシート」 「相手の理解を得る」ための工夫をするために、粘り強く吟味を繰り返しているかを確認する。 (思) b「ワークシート」 改善の理由が「相手の理解を得る」という視点から明確に書かれているかを見取る。 (主) c「振り返りシート」 粘り強く吟味を繰り返し、学習内容がメタ認知できているか、その認知したことを、活かしているかを確認する。
---	--	---	---

16 第三次の「思考・判断・表現」の観点が「概ね満足できる状況（B）」と判断されるワークシートの記入例（別紙にて提示）

17 第三次の「思考・判断・表現」の観点が「努力を要する状況（C）」と判断される生徒への手立て
「相手の理解を得る」ための工夫は、例えば、どのような表現を使う際に必要であるのかを、例を示して理解させた後、プレゼンテーションの具体と読み原稿を見ながら確認して、着目すべきポイントを理解させる。その気づきをチェックシートと照らし合わせて、具体例を例示しながら説明して、理解さ

せ、改善の方法を考えさせていく。抽象から具体への変換が難しい生徒がつまずくと考えられるので、具体例を示しながら理解させていくようにする。

18 本時の目標

- ・ 作成したチェックシートに沿って、ビジネス探究（ビジネス基礎）で作成しているプレゼンテーション資料を見直し、問題点を分析し、どのように改善すればよいかについて理由を明確にして整理できる。（思考・判断・表現）
- ・ 問題点の分析を基に、どのように改善すればよいかを、改善する理由を明確にしながら、粘り強く考えようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

19 本時の評価規準

- ・ 作成したチェックシートに沿って、ビジネス探究（ビジネス基礎）で作成しているプレゼンテーション資料を見直し、問題点を分析し、どのように改善すればよいかについて理由を明確にして整理している。（思考・判断・表現）
- ・ 問題点の分析を基に、どのように改善すればよいかを、改善する理由を明確にしながら、粘り強く考えようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

20 本時の展開（第三次の第二時）

学習活動	指導上の留意点 （◆努力を要する生徒への手立て）	評価規準	評価方法
○ 前時の学習内容を確認し、本時の学習内容を伝える。 ○ 作成したチェックシートに沿って、ビジネス探究（ビジネス基礎）で作成しているプレゼンテーションを見直し、問題点を分析する。	・ 前時に共有した、どのような観点で資料を整理していくかを確認させる。 ・ 作った「チェックシート」を早速使って、これまでの自分の作ったものについて分析し、改善方法を考えさせる。	（思） b 作成したチェックシートに沿って、ビジネス探究（ビジネス基礎）で作成しているプレゼンテーション資料を見直し、問題点を分析し、どのように改善すればよいかを理由を明確にして整理している。	「ワークシート」の記述
○ 問題点の分析を基に、どのように改善すればよいかを、改善する理由を明確にしながら考える。	・ なぜそのシートを、そのように直すのかを「相手の理解を得る」という視点から分析させ、明記させる。 ◆ どのように書けばよいか分からない生徒を把握し、指導するため、教室の後ろの空いた席を使用し、例示などをしながら個別で	・ （主） c 問題点の分析を基に、どのように改善すればよいかを、改善する理由を明確にしながら、粘り強く考えようとし	「振り返りシート」と「ワークシート」の記述の関連を確認

○ 本日の振り返りを確認する。	人ずつ状況を確認する。 ・改善の過程での気づきを記述させる。	ている。	
-----------------	-----------------------------------	------	--

[illegible]

読み原稿

★発表前に確認しよう！（修正案は複数考えて、良いほうを選ぶと一層よいものになりますね！）

[illegible]

★発表前に確認しよう！（修正案は複数考えて、良いほうを選ぶと一層よいものになりますね！）

[illegible]

読み原稿チェックシート **B評価記入例**

★発表前に確認しよう！（修正案は複数考えて、良いほうを選ぶと一層よいものになりますね！）

[illegible]

★発表前に確認しよう！（修正案は複数考えて、良いほうを選ぶと一層よいものになりますね！）

[illegible]